

### 3 近代水道の建設

#### ○近代水道建設の必要性

江戸時代から、運輸の中心は舟運でしたが、水質の悪化を懸念して玉川上水の通船は江戸時代の間は認められませんでした。明治新政府も明治3（1870）年4月に一度通船を許可したものの、水質の悪化が進み、わずか2年で廃止しました。

明治時代には木ひの汚染や腐食で水質悪化も深刻化し、コレラの大流行も起こりました。そのため、欧米からの新技術の導入を背景に水道改良の機運が高まり、浄水場で原水を沈殿、ろ過し、鉄管を使用して加圧給水する近代水道の建設が急務となりました。

そこで、玉川上水を導水路としてそのまま使用し、代田橋付近から淀橋浄水場までを結ぶ新水路を建設し、明治31（1898）年12月には神田、日本橋方面に給水を開始しました。



●東京水道鉄管線路略図（明治32年）